

かながわ子ども教室

ニ ュ ー ス

第93号

「コロナ後の活動」

森 英敏



2020年1月に中国武漢で発生して、世界中に蔓延したコロナも、ようやく下火になってきています。日本ではマスク着用も個人判断になり、いろいろな規制が緩和されはじめたところですが。いま日本ではWBCで沸き立っていますが（このDKKニュースが発行される日には、どうなっているか？）、この盛り上がりもコロナ規制の緩和が大きくかわっていると思います。われわれの活動も、各分科会とも活動を中止しているグループが多く、歩こう会、ゴルフ同好会の屋外での活動するグループだけが昨年あたりから活動しているだけでした。これから世の中の動きに合わせて、そろそろ動き始めるのではないかと考えています。

DKKの活動の一つである「かながわ子ども教室」の教室の開催回数を見ると、最も多く開催したのは2017年度の156回です。それが2020年度は22回、2021年度は63回と減少していましたが、2022年度は118回まで戻りました。2022年度は最大数の時の約75%まで回復しています。確かに感染者数だけ見ると第7波、第8波の方が圧倒的に多いですが、2020年のコロナ禍の初期のころは、志村けんや岡江久美子といった有名人が亡くなり、みんながコロナの怖さを実感したころでした。今は国民の多くがワクチンを接種していますし、初期に比べるとコロナウイルスの変異株がいくつもあり、現状ではウイルスの感染力はともかく、ワクチンや治療薬の効果もあって重症度はそれほどではないようです。おそらくこれからは今までのインフルエンザと同じような感じで。生活できるのではないのでしょうか。ただしもっと強い変異株があらわれなければですが・・・。

そのような中で今後の我々の活動を考えると、まず会員のみなさんが普通の生活ペースに戻ること、そしてそのあとDKKの活動を以前の姿に戻すことだと思っています。そのためには各分科会の活動をもとに戻したいと思っています。ぜひみなさんのご協力をお願いいたします。

かながわ子ども教室

松下恵造

3月に入って新型コロナ感染・第8波も収束し、3月度の教室も予定通り12回開催の見込みで、2022年度は118回の教室開催数が見込まれます。新型コロナ感染発生前の2019年度の教室開催数（131回）に近いところまで戻って来ました。

例年3月に参加している川崎市青少年フェスティバルの本年度の企画が「タイムトラベル」、具体的には、1)過去の遊びの体験：めんこ、輪投げ等、2)未来の遊びの体験：企業に協力依頼、とのことで、残念ながら当方には招請をされないことになりました。フェスティバルの企画担当部署である川崎市子ども未来局とのコンタクトは今後も続け、復活参加を目指します。

2023年度の教室開催計画の基本方針を決め、予算と計画を作成する時期ですが、基本方針については、新型コロナ感染が2022年度のレベルを大きく超えないのであれば、ウィズコロナで進められるものと考え、1)2022年度の2本立て（上期にコロナが収束する、しない）の計画ではなく1本で行く、2)分野として学童とキッズは分ける方針とし、全分野合計の開催数は115～129回としました。

準備の整った新規教室：「電池をつくろう」教室、「真空」教室のうち、「電池をつくろう」教室が2月15日と2月22日に末吉小学校正規授業、3月8日に南永田学童クラブにて開催され、高評価で順調に立ち上がりました。

昨年12月に新谷さんが心不全で亡くなりました。新谷さんは「ダイヤかながわ交流会」第4代の代表を務められ、また「かながわ子ども教室」の発足と発展に積極的で多大なご尽力をいただきました。ご冥福をお祈り申し上げます。田口さんは日産座間工場・自動車博物館の説明員に専念されたいとのことで、今月退会されました。残念ですが、説明員の方でご活躍下さい。現在の会員数は38名となりますが、会員数のこれ以上の低減が生じないように、会員各位が「勧誘チラシ」を活用する等の方法で広く勧誘活動を行っていただき、新規会員の増加を図る必要が有ります。2023年度の入会人数目標を5名としますので、皆様の積極的なご協力をよろしくお願い致します。